

すべてが新鮮、 そして感動の8日間

学校教育課 ☎(88)9168



左から 橋本真佳さん、関祥之介さん、大和田光希さん、鈴木穂乃華さん、大越由香子さん、大山奈々花さん、佐久間桃さん



市青少年人材育成海外派遣事業のオーストラリア研修が、8月1日から8日間の日程で行われました。昨年度、文芸、音楽、体育などのコンクールや大会で優れた成績を収め、参加を希望する小学・中学・高校生の中から書類選考と面接によって選ばれた7人が、学校交流やホームステイを体験しました。

研修視察を振り返って

リーダー 佐久間 桃
(安積高校1年)

この研修は、5月の面接に始まり、6月の結団式、そして7月にかけて、3回の事前研修を経て実施されました。事前に一人一人が、ホームステイやこの研修視察での目標や学びたいことを確認し、この研修に挑みま

不安と期待を胸に

出発式は8月1日に市役所で行い、教育委員会や保護者の皆さんによって見送られました。私たちは、初めての海外への訪問に期待と不安を抱えながらも日本を飛び立ちました。初めのうちは研修生同士も緊張して、あまり会話がありませんでしたが、日がたつにつれ、だんだんと仲良くなっていきました。

学校交流

ケアンズからバスで約20分の郊外にある「トリニティ・アングリカン・スクール」で学校交流を行いました。この学校は、5歳から12歳まで189人が通う、ケアンズでは大規模な私立の小学校です。午前中は、授業に参加したり、休み時間に一緒に遊んだりしました。担当のバディが優しく付き添って教えてくれたので、英語だけの学校生活を楽しむことができました。

私は5年生のクラスに入って授業を受けました。私より何歳も年下のはずなのに、英語をしっかりと話している、クラスの子どもたちはみんな、大人っぽく見えました。オーストラリアの学校は、日本と比べて、先生と子どもたちの間の言葉のキャッチボールが多いと感じました。子どもたちが活発に発言する様子を見て、特に年齢が低いうちは、日本もこのような雰囲気が必要なのではないかと思いました。

休み時間に行った習字体験では、「和」という字を披露し、書く体験をしてもらいました。児童の名前を漢字や片仮名で書いてプレゼントすると、とても喜んでくれたので、私たちがうれしかったです。

ホームステイ

学校交流が終わり、夕方からホス

トファミリーの家にきました。私と鈴木穂乃華さんがお世話になったファミリーは、大家族でした。それぞれ2匹ずつの犬と猫、モルモットや魚、そして元気な子どもたち。ファミリーは私たちを優しく受け入れてくれました。夜に食べたミートパイは、初めて食べるものですが、とてもおいしかったです。

世界遺産研修

研修6日目と7日目は、世界遺産での研修でした。キュランダでは、日本では見ることのできない植物や生き物を間近に見て、肌で感じることができました。また、見ると幸せになれると言われている青いチョウ「ユリシス」を見ることができました。グリーン島では、海に潜って見た魚たちがとても心に残っています。まるで小さな魚たちと一緒に泳いでいるようで、とても貴重な体験をしました。

これからの成長へ

研修を通して、オーストラリアのプラス面もマイナス面も学び知ったことで、逆に日本の良さも確認できました。そして、日本では絶対に経験できないことをたくさん経験し、研修生それぞれが自分なりに多くのことを学び、感じるようになりました。学んだだけでは終わらない、それをどう生かし、自分を成長させていくかが、これからの研修生の課題だと思っています。

最後になりますが、この研修に関わってくださった全ての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

3日間のホームステイを経験しました

佐久間 桃さん・鈴木 穂乃華さん
(安積高校1年) (柏城小6年)



猫や犬、馬などたくさん動物を飼う、パトリックさん大家族にお世話になりました。キャンプファイヤーやビーチの散歩などを通し、ただの観光客ではなく、本当の「家族の一員」として接してくれました。十分に伝えることができないことがたくさんありましたが、「ありがとう」の気持ちは伝えられました。

大越 由香子さん・大山 奈々花さん
(西袋一小6年) (第二中3年)



4人家族のトンプソンさん一家にお世話になりました。コミュニケーションをとることはできたものの、英語を使って完全に理解できる会話はできなかったため、言葉の壁は大きいことを実感しました。もっと英語で話せたら、世界が広がって楽しそうだなと思い、以前よりも英語に興味を湧いてきました。貴重な体験を本当にありがとうございました。

橋本 真佳さん・大和田 光希さん
(稲田学園6年) (小塩江中3年)



5人家族のピンクさん一家にお世話になりました。水や電気を大切にしながら生活している姿を見て、僕たちも普段の生活を反省し、見習っていきたくと思いました。英語をもっと勉強し、「またオーストラリアに行きたい」という思いが強くなりました。その時は、またピンクさん家族と再会したいです。

関 祥之介さん
(第二中3年)



3人家族のテイラーズミスさん一家にお世話になりました。言葉は分からなくても、伝えよう・理解しようとする気持ちがあれば、分かり合えるということを体験できました。不安でスタートしたホームステイでしたが、別れの時はとても寂しく「もっと一緒に過ごしたい」と思いました。言葉では言い尽くせないほど感謝しています。

トファミリーの家にきました。私と鈴木穂乃華さんがお世話になったファミリーは、大家族でした。それぞれ2匹ずつの犬と猫、モルモットや魚、そして元気な子どもたち。ファミリーは私たちを優しく受け入れてくれました。夜に食べたミートパイは、初めて食べるものですが、とてもおいしかったです。

2日目の夕食後、庭でキャンプファイヤーをしていたとき、11歳の女の子が、授業で習った日本語を披露してくれました。自己紹介から挨拶、単語など多くの日本語を楽しそうに話す彼女は、とても日本が好きで、私もうれしかったです。オーストラリアの人は、日本のことをこんなにも知っているのかと驚きました。

3日目のお別れのとき、マザーは私たちを抱きしめて「大好きだよ」と言ってくれました。ホームステイでは、はじめ、なかなか積極的に話すことができず、もどかしい思いをしていましたが、優しいファミリーが私たちに分かるようにゆっくりと話しかけてくれたので、だんだんと居心地の良い場所になりました。生活の仕方や文化の違いも、しっかりと学ぶことができました。

また、ともに参加した研修生にも感謝することがたくさんあります。特に学校交流などに向けて、様々な